

## 委員意見とその対応(第2回 新・首里杜構想検討部会 R2.10.28)

1	いのうえ委員	◆八景の大半が整備済みとはいえない理解。電線の整理や弁之御嶽再整備が必要。また、スカイライン保全では虎瀬山西側の整備をどう考えているのか。	次年度の整備基本計画策定時に再度整理する。	土木建築部
2	池田座長	◆これまでの首里杜構想の進捗整理について、当時がない考え方が増えている。新しい理念の下で整備のあり方の検討が必要。	ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。  【基本施策6「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進】 ●施策の方向性 (1)歴史を体現できる風格ある都市空間の創出 ①「新・首里杜構想」の策定と着実な取組 前回、平成の首里城復元にあたり、首里城を中心とする首里杜地区のまちづくりの基本的な考えを示した首里杜構想について、首里城の復元にとどまらない今般の首里城復興の理念を踏まえ、首里杜地区の新たなまちづくりの理念・方針及び目標期間を示し「新・首里杜構想」を策定する。 また、構想に基づき、新・首里杜構想の実現に必要な施策体系を明らかにする整備基本計画を策定する。整備基本計画は、「歴史のまちづくり(歴史を体現できる風格ある都市空間の創出)」「歴史文化資源の整備(首里城公園及び周辺地域の段階的整備)」「交通環境の整備」を柱として設定し、那覇市等との役割分担を踏まえ、具体的な事業手法の検討を行う。	土木建築部
3	上原委員	◆遺構の復元などの際には、世界文化遺産登録の意義も踏まえ、遺跡の真实性を重視した。この考えを踏まえた整備が必要。遺構以外のものも復元したものとの共存が必要。 ◆開発に伴い今後も遺跡の発見が想定されるが、それらを共存させながら活用することが課題。	ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。  【基本施策4 文化財の保全、復元、収集】 ●施策の方向性(1) 首里城跡の適正な保全と価値の周知 ② 周辺文化財の情報発信 首里城及び周辺の文化財について、これまでの発掘調査の成果を公開するとともに、現地説明会や出土品の企画展示展、講演会を開催する。また、公開にあたっては多言語化を含めAR・VR等先端デジタル技術を活用し分かりやすさに工夫を凝らすとともに、世界に向けて情報発信等に取り組む。	教育庁

## 委員意見とその対応(第2回 新・首里杜構想検討部会 R2.10.28)

4	田名委員	<p>◆中城御殿の整備も具体的に決める必要がある。城郭内整備に関わる収蔵庫の問題にも、県はしっかりと意思を表明すべき。</p> <p>◆御茶屋御殿、円覚寺をどう位置づけ、どう整備していくをするか明確にすべきである。</p> <p>◆首里城一点集中型ではなく、魅力資源を面として捉えた整備をし、回遊させる形が望ましい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</p> <p>【基本施策3 首里城のさらなる魅力の向上】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(1) 国営・県営区域の一体的利用</p> <p>① 首里城公園全体の魅力向上 正殿等の復元整備にあわせて、県、国、指定管理者の連携のもと、首里城公園全体の一体的な利用に向けた検討を行い、施設整備や利用動線、展示や案内機能の上など首里城の魅力を体感できるように取り組む。</p> <p>② 中城御殿の整備と展示・収蔵機能の拡充 首里城に関連する文化財等を展示・収蔵する機能も含め、県営公園区域にある中城御殿の復元を検討・整備することで、歴史的空間を体験できる場を創出する。</p> <p>③ 県営公園区域内の文化遺産等の整備 松崎馬場、円覚寺跡や龍潭周辺等を計画的に整備し、国営公園と一体となった首里城公園の魅力向上を図り、県民をはじめ観光客等の満足度や回遊性を高め、ひいては周辺地域の周遊につなげていく。</p> <p>【基本施策6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(2) 首里城公園及び周辺地域の段階的整備</p> <p>① 中城御殿や円覚寺などの歴史文化遺産の整備 首里城公園において琉球・沖縄の豊かな歴史文化を多面的に伝えるために、県営公園区域にある中城御殿、円覚寺跡や松崎馬場等の重要な歴史文化遺産を計画的に整備し、国営公園と一体となった歴史的空間を体験できる場を創出する。</p>	土木建築部
---	------	--	--	-------

## 委員意見とその対応(第2回 新・首里杜構想検討部会 R2.10.28)

5	神谷委員	<p>◆新・首里杜構想の方針案に「総合的な交通対策」とあるが、まずは定量的なデータに基づく議論を行い、その議論を踏まえ、目標を設定すべき。</p> <p>◆ハードだけではなくマネジメントも重要。</p>	<p>ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。</p> <p>【基本施策6「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進】</p> <p>●施策の方向性</p> <p>(3) 交通環境の整備</p> <p>① 安全で快適な歩行空間の整備等</p> <p>首里城に来園する観光客や地域住民の安全で快適な歩行空間の確保を図るため、無電柱化の推進、龍潭線の整備、歩行者中心の道路空間の創出、スージグワアの整備、域内公共交通網の充実などについて、県、那覇市、住民、交通事業者等の連携体制を構築して取り組む。</p> <p>② 交通課題への対応</p> <p>首里地域における通過交通、観光交通、地域住民の交通による局所的に起こる渋滞等について、県、那覇市、地域住民、観光・交通事業者等が連携し、交通に関する定量的なデータの収集・分析、めざすべき交通環境の水準を定め、交通課題の解決に向け取り組んでいく。</p> <p>なお、中期的な対策として、交通事業者との連携によるピーク分散や首里杜館駐車場の運用改善、大型観光バス等の駐機場の確保、コミュニティバス等の導入、パークアンドライドの整備等に取り組む。さらに、通過交通を抑制するハシゴ道路のネットワークを形成する幹線道路である那覇インターアクセス道路の早期事業化等について検討する。</p>	土木建築部
---	------	---	---	-------

## 委員意見とその対応(第2回 新・首里杜構想検討部会 R2.10.28)

6	越智委員	◆連携体制は計画期間だけで終わるものではなく、今後も続き、自走するものであるべき。計画期間においては、そのような体制を構築することが重要であり、教育機関も含めた連携体制が必要。	ご意見を踏まえ、首里城復興基本計画(たたき台)に反映した。  【基本施策6「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進】 ●施策の方向性 (1) 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出 ② 推進体制の構築・充実・強化 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出に向けては、長期かつ多岐にわたる課題を有することから、県、国、那覇市、有識者、大学等高等教育機関、関係団体や事業者、住民など多様な主体が必要に応じて参画できる体制を県等・構築し、情報の共有や課題の解決に継続して取り組むことで計画的な推進につなげていく。	土木建築部
7	池田座長	◆連携体制は、有識者が突出する形ではない方が良い。NPOや専門家集団も含めた「団体等」を追加すべき。		
8	神谷委員	◆大学、住民、事業者も含めて継続的に議論できる場が必要。	【復興基本計画の着実な推進】 ●施策の方向性 (1) 国、那覇市等関係機関との連携等 ① 役割分担の明確化と連携体制の構築 首里城復興基本計画を着実に推進して行くためには、国、県、那覇市、一般財団法人沖縄美ら島財団など関係機関の役割を明確にした上で、各主体が相互に連携・補完しながら効率的・効果的に取組を進めていくための連携体制の構築を図る。	
9	いのうえ委員	◆首里杜地区の住民が、50年後の首里のまちを見据えた「首里まちづくり憲章(仮)」を提起する予定。まちづくりとともに観光、交通などの課題解決に取り組み、成功すれば全島のモデルにもなると期待している。50年後の首里のあるべき姿の実現に向けて、住民も一緒に動いていきたい。	【基本施策6「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進】 ●施策の方向性 (1) 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出 ① 「新・首里杜構想」の策定と着実な取組 前回、平成の首里城復元にあたり、首里城を中心とする首里杜地区のまちづくりの基本的な考えを示した首里杜構想について、首里城の復元にとどまらない今般の首里城復興の理念を踏まえ、首里杜地区の新たなまちづくりの理念・方針及び目標期間を示し「新・首里杜構想」を策定する。	